緑の風 JREU TIMES

JR東労組（東日本旅客鉄道労働組合）
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1
東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階
電話　03-5315-0941
発行人 加藤誠　編集人 湯ノ目亜矢子
毎月１回20日発行／一部20円
（組合員の購読料は、組合費に含む）

2025年3月20日
第７７３号

ＪＲ東労組ホームページは
←こちらからアクセス
http://www.jreu.or.jp/

2025年度賃金引き上げ及び夏季手当

25春闘 昨年より ベアの格差1.5倍に拡大！

ベア 所定昇給額の1.5倍 ＋4,000円

定期昇給 昇給係数 4 完全実施

等級		ベースアップ 所定昇給額×1.5	加算額	改定額		定期昇給		賃上げ合計
一般社員	主幹職A	9,900	4,000	13,900	＋	6,600	＝	20,500
	主幹職B・技術専任職	9,500	4,000	13,500		6,300		19,800
	主務職	9,000	4,000	13,000		6,000		19,000
	主任職1等級・2等級	8,900	4,000	12,900		5,900		18,800
	指導職1等級・2等級	8,300	4,000	12,300		5,500		17,800
	係職2等級	7,500	4,000	11,500		5,000		16,500
	係職1等級	6,000	4,000	10,000		4,000		14,000
医療社員	H等級	10,400	4,000	14,400		6,900		21,300
	M等級・S等級	10,100	4,000	14,100		6,700		20,800
	T等級	9,800	4,000	13,800		6,500		20,300
	C等級	9,600	4,000	13,600		6,400		20,000
	D等級	9,300	4,000	13,300		6,200		19,500
	E等級	8,300	4,000	12,300		5,500		17,800

夏季手当 昨年より僅か プラス0.1ヶ月のみ！

基準内賃金の 2.8ヶ月分

支給日（予定）
令和７年
６月26日（木）

職責を超えて奮闘する職場の努力に報いない経営姿勢に対して 仲間と共に立ち向かっていこう！

ＪＲ東労組は、２０２５ＪＲ総連春闘として、申12号「２０２５年度賃金引き上げ等に関する申し入れ」を２月12日に提出し、ＪＲ東日本グループで働く全組合員と共に「統一要求・統一闘争」としてたたかいをつくり出してきました。また、これまでの労使議論と確認事項を踏まえ、申13号「２０２５年度夏季手当に関する申し入れ」も同日提出しました。

しかし、経団連大手企業や連合の回答ゾーンを大きく前倒しした３月６日に会社から回答が示されました。その回答はＪＲ東労組の要求と趣旨から大きくかけ離れ、団体交渉で「職責の重みが増している」と職責のみが重視され、昨年と比べてベアの格差は１・５倍に拡大した３９００円となりました。夏季手当は昨年より僅かプラス０・１ヶ月という到底納得できるものではありませんでした。そのため再考を求めましたが、会社は最終回答だとして再考しないため、持ち帰り議論することとしました。

その最中、東北新幹線で列車分離が発生し、回答オープン日時が翌日の３月７日に延期されました。列車分離では、お客さまに多大なご迷惑をお掛けし、職場は大混乱となる中、必死で対応しました。それにもかかわらず、７日に会社が示した「社員のみなさんへ」では、６日に発生した列車分離に対するコメントが一言もないことに対して、怒りや不信の声が中央本部へ多く寄せられました。

組織内議論を経て、３月11日に**申16号「現場第一の姿勢で職責を超えて奮闘する職場の努力に報い、生活とモチベーションの維持・向上の実現を求める緊急再申し入れ」**を提出しました。そして、会社回答がオープンになって以降、会社回答に対する緊急アンケートを実施したところ２５００件を超える組合員・社員の声が中央本部に寄せられました。また、各地で開催された春闘集会には１３００名を超える組合員・社員が結集しました。

３月14日に申16号緊急申し入れの団体交渉を行いました。これまでの交渉でも生活実感、労働実感、モチベーション、離職についての声を会社に訴えてきました。また会社解答を受けて行った緊急アンケートで出された声は、昨年にも増して深刻なものになっていることを受け止めるべきであり、会社には届いていない本音の声であることを訴えました。しかし、会社回答は新賃金と夏季手当の水準について、踏み込んだ最大限の回答であり、最終回答であると繰り返すだけでした。

その後、組織内で議論を行い、現場第一としない経営姿勢に対し、２５春闘で培った組織力をさらに強化していくことと、安全第一の職場を再確立していく意思統一を行いました。そして、３月15日に苦渋の判断で妥結することとし、見解を発出しました。

職場の奮闘・努力に報いる回答を求め、バス東北本部、バス関東本部、ステーションサービス協議会と共にＪＲ総連春闘を最後までたたかい抜いていきましょう！

25,000件を超えた25春闘緊急アンケート集約結果

1. ベア回答について　満足 5.0％　不満 73.3％
2. 夏季手当回答について　満足 3.7％　不満 85.1％
3. ベアの実施方法について　わかりやすい 7.1％　わかりにくい 71.2％
4. 会社は「合理的な差」と回答していますが、ベアに格差がつくことに賛成ですか？　賛成 2.8％　反対 80.4％
5. 回答は過去最高の働き度に報いていると思いますか？　はい 1.3％　いいえ 90.0％
6. 会社回答は生活実感が考慮されていると思いますか？　はい 2.1％　いいえ 88.2％
7. 会社回答でモチベーションはどのように変化しますか？　向上する 1.7％　下がる 75.1％

赤エンピツ

最近のニュース、ワイドショーは、石破首相の10万円商品券問題で賑わっている。懲りずにお金に関する問題を繰り返す自民党の姿勢には呆れるばかりだ▼10万円の商品券で「ハンカチでも買ってねという思い」と石破首相は説明しているが、世論でも「国民感覚からかけ離れている」と叩かれている。ハンカチを何枚買えというのか？節約生活を余儀なくされている私だと、スーツ5着を買っても余る金額だ▼今、コメをはじめ、毎月のようにモノが値上がる一方で、物価上昇に賃金が追い付かず、厳しい生活実感を強いられている。この現実が目に入らないのか▼職場では「融合と連携」や「要員不足」などによって「過去最高の働き度だ」という悲痛な声が多くあがっている。合わせて、待遇や賃金に対する疑問の声は非常に多い。団体交渉で要員不足を訴えても「必要な要員を確保している」と会社は回答するが、職場の現実が見えていないと言わざるを得ない▼現場の声を大切にし、現場感覚を決して失ってはならない。より良い社会、より良い会社にするために、現場第一線から声を上げ続けよう。

（E・I）